

映画で学ぶ 情報を見極める力 / 第3回

『父親たちの星条旗』授業ガイド

一枚の写真がつくる「物語」——「写真は、一瞬の『切り取り』。」

教員用・指導資料（対象：中学生以上）

🏠 本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	一枚の写真がつくる「物語」（写真の切り取り、象徴としての利用、事実の訂正）
教材映画	『父親たちの星条旗』（原題 <i>Flags of Our Fathers</i> / 2006年・アメリカ / 監督：クリント・イーストウッド）
対象	中学生以上。硫黄島の戦いによる死傷の描写を含む（下記参照）
時間	標準100分（50分×2）。上映132分。厳選クリップ・あらすじ紹介を組み合わせる
中心概念	報道写真と切り取り / 宣伝（戦時国債）とつくられた英雄 / 「事実」の訂正 / 写っていない部分を想像する
ねらい	写真や映像が一瞬の切り取りであり、使われ方によって「物語」がつくられることを理解する
準備物	生徒用ワークシート（別PDF） / 写真の一部を隠した作例（トリミング体験用） / 筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 戦闘描写・差別の描写の扱い

硫黄島の戦いによる死傷の描写を含みます。また、先住民の兵士アイラ・ヘイズが受けた差別も描かれます。

- 年齢区分はソフト・配信により表示が異なる場合があるため、**上映前に確認**する。
- 上映は**場面を選んで**行う（宣伝ツアーの場面を中心に）。
- 写真の人物特定が**映画公開後に訂正されている点**（2016年・2019年）を補足する。
- 特集「戦争と平和」第5回『硫黄島からの手紙』と組み合わせる場合は、日米両方の視点を公平に扱う。

📄 レイティング・著作権について

- 年齢区分は配信版・ソフトにより表示が異なる場合があります。使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 一枚の報道写真（予備知識）

写真が撮られた日

1945年2月23日、硫黄島の摺鉢山の頂上で、報道カメラマンのジョー・ローゼンタールが星条旗を立てる兵士たちを撮影しました。この写真は新聞に大きく載り、**ピューリッツァー賞**を受賞しました。実は、写真の場面は先に立てられた旗を、より大きな旗に取りかえたときのものです。

つくられた「英雄」

写真が有名になると、政府は写っていた兵士のうち生き残った3人を本国に呼び戻し、戦争の資金を集める「戦時国債」の宣伝のため、「英雄」として全国を回らせました。国が語る英雄物語と、兵士自身の体験は大きく違っていました。

💡 「事実」も訂正されることがある

写真に写った人物として長く伝えられてきた兵士のうち、原作者の父ジョン・ブラッドリーについて、アメリカ海兵隊は**2016年**に「写真には写っていなかった」と発表し、**2019年**にはレイニー・ギャグノンも写っていなかったと認めました。映画は2006年の作品で、これらの訂正の前につくられています。「情報は確かめ直すもの」という視点を扱うのに最適な教材です。

写真を読む4つの視点（板書用）

① 切り取られた一瞬

写真の前後に、何があったのか。

② 写っていないもの

フレームの外には、何があるのか。

③ 誰が、何に使った？

写真は宣伝や「象徴」として使われることがある。

④ 事実も訂正される

長く信じられた情報が、あとで変わることもある。

🎯 この授業の到達目標

写真や映像が「一瞬の切り取り」であり、使われ方によって物語がつくられることを、映画の場面と実際の訂正を根拠に説明できる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	写真の一部だけを見せ、次に全体を見せて印象の違いを体験させる（トリミング体験）。
10-20分	背景	1945年の報道写真と、戦時国債の宣伝について説明。
20-48分	映画を観る①	写真が撮られる場面、3人が呼び戻される場面（クリップ）。
50-72分	映画を観る②	宣伝ツアーで旗を立てる場면을再現させられる場面、アイラ・ヘイズの苦しみ（クリップ）。
72-90分	ワーク記入	「写真を読む4つの視点」と、2016年・2019年の訂正について考える。
90-100分	共有・まとめ	板書「写真は、一瞬の『切り取り』。」で締める。

🌱 まとめ

写真は言葉より強く人の心を動かします。だからこそ、その前後や写っていない部分、そして誰が何のために使っているかを想像する必要があります。何十年も「事実」とされてきたことが訂正された例は、情報を「確かめ直す」ことの大切さを教えてくれます。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Flags of Our Fathers ／ 父親たちの星条旗
製作年・国	2006年・アメリカ。上映132分
監督・製作・音楽	クリント・イーストウッド（製作にはスティーヴン・スピルバーグも参加）
原作	ジェイムズ・ブラッドリー（ロン・パワーズとの共著）『硫黄島の星条旗』。写真に写っているとされた兵士の息子が書いたノンフィクション
二部作	同じ戦いを日本側から描いた『硫黄島からの手紙』と対をなす

主なキャストと役柄

- ライアン・フィリップ（ジョン・“ドク”・ブラッドリー役）：衛生兵。戦後、戦争についてほとんど語らなかった父親。
- アダム・ビーチ（アイラ・ヘイズ役）：先住民出身の兵士。「英雄」扱いに最も苦しんだ人物。
- ジェシー・ブラッドフォード（レイニー・ギャグノン役）：「英雄」の役割を演じようとする若者。

写真が記念碑に

この写真をもとにした大きな銅像が、ワシントンD.C.近くにある「海兵隊戦争記念碑（硫黄島記念碑）」です。一枚の写真が、そのまま国の記念碑になりました。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. なぜ一枚の写真が、アメリカ中を熱狂させたのだろう？

→ 写真の持つ力と、戦争中の人々の気持ち、宣伝に使われたことを結びつけさせる。

Q. 「英雄」と呼ばれた3人は、なぜ苦しんだのだろう？

→ 国の語る物語と、本人の体験のずれに注目させる。アイラ・ヘイズの受けた差別にもふれる。

Q. 写っている人物が、何十年もたってから訂正されたことをどう考える？

→ 「事実」も確かめ直されることがある。情報を更新する姿勢の大切さへ導く。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 写真が一瞬の切り取りであることを、具体例を挙げて説明できているか。
- 写真が宣伝や象徴として使われることを考えられているか。
- 情報が訂正されることについて、自分の考えを書けているか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	羅生門	証言はなぜ食い違うのか	中学生～
2	市民ケーン	メディアを持つ者の力	中学生～
3	父親たちの星条旗	一枚の写真がつくる「物語」	中学生～
4	スポットライト 世紀のスcoop	一次情報と裏づけ	高校生～
5	アルゴ	実話映画の脚色	中学生～
6	JFK	事実と主張を見分ける	高校生～
7	ソーシャル・ネットワーク	プライバシーと同意	高校生～
8	監視資本主義：デジタル社会がもたらす光と影	SNSのしくみを知る	中学生～

8 参考資料（主な出典）

父親たちの星条旗 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「父親たちの星条旗」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/父親たちの星条旗>

作品：映画『父親たちの星条旗』（2006年、監督クリント・イーストウッド）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。